# 安 全 デ ー タ シ ー ト

## 流動パラフィン

**飼料品質改善協議会**
**プレミックス研究会**
作成年月日:2023 年 12 月 13 日

1. 化学品名及び会社情報

| | |
|---|---|
| 化学品の名称 | 流動パラフィン |
| 供給者の会社名称 | ロック化学製品株式会社 |
| 住所及び電話番号 | 東京都目黒区碑文谷五丁目 29 番 10 号<br>TEL:03-5731-9569 |
| 用途 | 飼料または飼料添加物 |
| 使用上の注意 | なし |

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

| | | |
|---|---|---|
| 物理化学的危険性 | 爆発物 | 分類できない |
| | 可燃性ガス | 分類できない |
| | エアゾール | 分類できない |
| | 酸化性ガス | 分類できない |
| | 高圧ガス | 分類できない |
| | 引火性液体 | 区分に該当しない |
| | 可燃性固体 | 分類できない |
| | 自己反応性化学品 | 分類できない |
| | 自然発火性液体 | 区分に該当しない |
| | 自然発火性固体 | 分類できない |
| | 自己発熱性化学品 | 分類できない |
| | 水反応可燃性化学品 | 分類できない |
| | 酸化性液体 | 分類できない |
| | 酸化性固体 | 分類できない |
| | 有機過酸化物 | 分類できない |
| | 金属腐食性化学品 | 分類できない |
| | 鈍性化爆発物 | 分類できない |

| | | |
|---|---|---|
| 健康有害性 | 急性毒性（経口） | 区分に該当しない |
| | 急性毒性（経皮） | 区分に該当しない |
| | 急性毒性（吸入：粉じん、ミスト） | 区分 2 |
| | 皮膚腐食性／刺激性 | 区分に該当しない |
| | 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | 区分 2B |
| | 呼吸器感作性 | 分類できない |
| | 皮膚感作性 | 区分に該当しない |
| | 生殖細胞変異原性 | 区分 2 |
| | 発がん性 | 区分に該当しない |
| | 生殖毒性 | 分類できない |
| | 生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響 | 分類できない |
| | 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 区分 2 |
| | 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 区分 1 |
| | 誤えん有害性 | 区分 1 |
| 環境に対する有害性 | 水生環境有害性　短期（急性） | 分類できない |
| | 水生環境有害性　長期（慢性） | 分類できない |
| | オゾン層への有害性 | 分類できない |

GHS ラベル要素

絵表示または
シンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報
- 吸入すると有害（粉じん、ミスト）
- 眼刺激
- 遺伝性疾患のおそれの疑い
- 肺の障害のおそれ
- 長期または反復暴露による肺、皮膚の障害
- 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

【安全対策】
- 取り扱い注意事項をよく読み、理解してから取り扱う。
- 粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しない。
- 換気の良い場所でのみ使用する。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面、保護マスクなどを着用する。

取り扱い後はよく手を洗う。
【応急措置】
吸入した場合：新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪いときは、医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合：口をすすぐ。無理に吐かせない。
直ちに医師の処置を受ける。
眼に入った場合：流水で数分間洗い流す。
医師の処置を受ける。
取り扱った後、手を洗う。
暴露した場合：医師の処置を受ける。
気分が悪いときは、医師の処置を受ける。
【保管】
施錠して保管する。
【廃棄】
内容物や容器は関係法令に基づき適正に処理する。

3. 組成及び成分情報

| | |
|---|---|
| 化学物質・混合物の区別 | 化学物質 |
| 化学名又は一般名 | 流動パラフィン |
| 慣用名又は別名 | 流動パラフィン |
| 化学物質を特定できる一般的な番号 | CAS No. 8012-95-1 |
| 成分及び濃度又は濃度範囲 | 常温で液状の炭化水素(炭素が 15-20 程度)の混合物 |
| 官報公示整理番号 | 9-1692、2-10（化審法・安衛法） |

4. 応急措置

| | |
|---|---|
| 吸入した場合 | 直ちに新鮮な空気の場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。 |
| 皮膚に付着した場合 | 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。 |
| 眼に入った場合 | 直ちに流水で 15 分間以上洗い流し、必要に応じて眼科医の処置を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | 直ちに水を飲ませて医師の処置を受ける。無理に吐かせてはならない。 |

| | |
|---|---|
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な微候症状 | 情報なし。 |

5. 火災時の措置

| | |
|---|---|
| 適切な消火剤 | 粉末・二酸化炭素、乾燥砂、泡 |
| 使ってはならない消火剤 | 周辺の火災時：すべての消火剤の使用可 |
| 火災時の特有の危険有害性 | 火災によって刺激性、腐食性または毒性のガスを発生するおそれがある。 |
| 特有の消火方法 | 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。<br>初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。<br>大規模火災の際には、泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | 消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め、適切な保護服（耐熱性）を着用する。呼吸保護具を着用する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|---|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。露出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。 |
| 環境に対する注意事項 | 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。 |
| 二次災害の防止策 | 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

| | |
|---|---|
| 技術的対策 | 皮膚に付けたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。<br>火気に注意する。 |

| | |
|---|---|
| | 作業場所の換気を十分行う。 |
| 安全取扱注意事項 | 酸化剤と接触させない。<br>密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。<br>取り扱いは換気のよい場所で行なう。 |
| 保管 | |
| 安全な保管条件 | 容器は密栓して冷暗所に保管する。 |
| 安全な容器包装材料 | ガラス、ふっ素樹脂、ポリエチレン、ポリプロピレンなど |

8. ばく露防止及び保護措置

| | |
|---|---|
| 管理濃度 | 設定されていない。 |
| 許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標） | ACGIH(2009 年度版)：設定されていない。<br>日本産業衛生学会(2009 年度版)：設定されていない。 |
| 設備対策 | 取り扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸用保護具 | 必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する。 |
| 手の保護具 | 不浸透性保護手袋 |
| 眼、顔面の保護具 | ゴーグル型保護眼鏡 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服など |
| 特別な注意事項 | 情報なし。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|---|---|
| 物理状態 | 液体 |
| 色 | 無色 |
| 臭い | 無臭 |
| 融点／凝固点 | -10℃以下 |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | 300℃以上 |
| 可燃性 | データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | データなし |
| 引火点 | 238℃ |
| 自然発火点 | データなし |
| 分解温度 | データなし |
| pH | データなし |

| | |
|---|---|
| 動粘性率 | 75.8cSt(37.8℃) |
| 溶解度 | 水：不溶<br>有機溶媒：クロロホルム、二硫化炭素、テレピン油などと混合 |
| n-オクタノール／水分配係数（log 値） | データなし |
| 蒸気圧 | データなし |
| 密度及び／又は相対密度 | 0.87g/ml(20℃) |
| 相対ガス密度 | データなし |
| 粒子特性 | データなし |
| その他のデータ | データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|---|---|
| 反応性 | 酸化剤と接触すると反応することがある。 |
| 化学的安定性 | 通常条件で安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | データなし |
| 避けるべき条件 | 日光、熱 |
| 混触危険物質 | 酸化剤 |
| 危険有害な分解生成物 | 一酸化炭素 |

11. 有害性情報

急性毒性

| | |
|---|---|
| 経口 | 区分外　ラット　経口　$LD_{50}$>5000mg/kg |
| 経皮 | 区分外　ラット　経皮　$LD_{50}$>5000mg/kg<br>マウス　静脈注射　$TDL_0$=14g/kg |
| 吸入（蒸気・粉じん・ミスト） | 蒸気：データ不足のため分類できない。<br>粉じん・ミスト：区分 4<br>ラット　吸入　$LC_{50}$=2.18mg/l |
| 皮膚腐食性／刺激性 | 区分外<br>流動パラフィンは、化粧品用の基材としても使用されていて、皮膚刺激性はない。 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | 眼に対して刺激性がある(区分 2B)<br>ウサギを用いた眼刺激性試験において、軽度の刺激性がみられた。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性呼吸器感作性 | 呼吸器感作性：データ不足のため分類できない |

| | |
|---|---|
| | 皮膚感作性:モルモットを用いたマキシマイゼーションテストにおいて皮膚感作性は認められなかった。 |
| 生殖細胞変異原生 | 遺伝性疾患のおそれの疑い（区分 2）。<br>ラットを用いた細胞遺伝学的試験[染色体異常試験]（体細胞 in vivo 変異原性試験）における異常細胞の増加に加え、職業暴露を受けたヒトの末梢血リンパ球で染色体異常の頻度増加が観察された。 |
| 発がん性 | 区分外<br>IARC では高度精製品をグループ 3（ヒトに対して発がん性については分類できない）に分類している。 |
| 生殖毒性 | データ不足のため分類できない。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 肺の障害のおそれ（区分 2）<br>ラットに吸入暴露した試験により、肺に肉眼的、病理組織学的な急性変化（詳細不明）が用量依存的（1.51～5.05 mg/L）に見られたとの記述がある。 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 長期または反復暴露による肺、皮膚の障害（区分 1）<br>長年にわたり鉱油、あるいはそのミストの暴露を受けたヒトで肺線維症、脂肪肺炎、肺の脂肪肉芽腫が報告され、また、疫学調査において切削油への職業暴露により重度の毛嚢炎の発生が報告されている。 |
| 誤えん有害性 | 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ（区分 1）。<br>ヒトで鉱油の摂取により杯への吸引を起こし、その結果油性肺炎または化学性肺炎をもたらすとの報告がある。 |

12. 環境影響情報

| | |
|---|---|
| 生態毒性 | 魚毒性：データなし |
| 残留性・分解性 | データなし |
| 生態蓄積性 | データなし |
| 土壌中の移動性 | データなし |
| オゾン層への有害性 | データなし |

13. 廃棄上の注意

| | |
|---|---|
| 化学品（残余廃棄物），当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安 | 残余廃棄物：可燃性溶剤と混合して、スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。 |

| | |
|---|---|
| 全で，かつ，環境上望ましい廃棄，又はリサイクルに関する情報残余廃棄物 | 容器：空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。 |

14. 輸送上の注意

| | |
|---|---|
| 国連番号 | 非該当 |
| 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 | 輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷くずれの防止を確実に行う。 |
| 国内規制がある場合の規制情報 | 非該当 |

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

| | |
|---|---|
| 化学物質管理促進法（PRTR 法） | 非該当 |
| 労働安全衛生法 | 第 57 条名称などを表示するべき対象物質（表示対象物） |
| 毒物及び劇物取締法 | 非該当 |
| 飼料安全法 | 流動パラフィン |

16. その他の情報

この安全データシートは、いくつかの安全データシートの情報を参考にして、飼料品質改善協議会 プレミックス研究会が作成したものです。すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定などにご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質などの数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを想定しており、特殊な取り扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

＜引用文献＞

- 関東化学株式会社 MSDS（2010 年 3 月 12 日改訂）
- 有機化合物辞典、有機合成化学協会編、講談社（1985）
- Dangerous Properties of Industrial Materials,6th ed. N.I.Sax 他編
- Van Nostrand Reinhold Company(1984)
- 15710 の化学商品、化学工業日報社（2010）


＜改訂履歴＞

| 版 | 日付 | 内容 |
|---|---|---|
| 初版 | 2001 年 5 月 18 日 | ― |
| 第 2 版 | 2015 年 12 月 4 日 | GHS 対応 |
| 第 3 版 | 2021 年 12 月 20 日 | JIS 改正に合わせて改訂 |
| 第 4 版 | 2023 年 12 月 13 日 | 労働安全衛生法改正に合わせて改訂 |